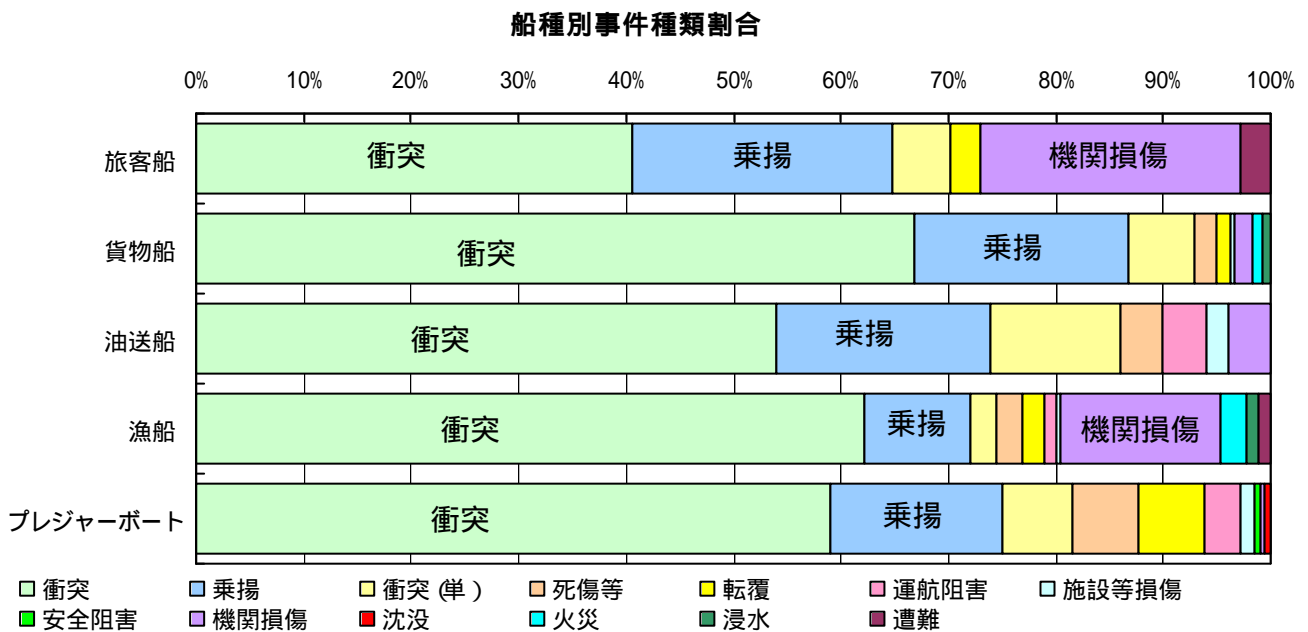


第2節 船種からみた海難原因

裁決の対象となった船舶隻数 1,259 隻を船種別にみると、漁船 502 隻（40%）、貨物船 242 隻（19%）、プレジャーボート 212 隻（17%）、油送船 50 隻（4%）、旅客船 37 隻（3%）などとなっています。

これらの船種による事件種類別の割合は、下図のようになっており、全ての船種において「衝突」、「乗揚」の割合が高くなっていますが、特に、旅客船及び漁船では「機関損傷」、油送船では「衝突（単）」が目立つのが特徴となっています。（資料編第 24 表参照）



船種別に主な原因割合を比較すると、プレジャーボート及び漁船の「見張り不十分」、貨物船及び漁船の「居眠り」、プレジャーボートの「針路の選定・保持不良」などが目立っています。（資料編第 2 表参照）

